



## 2022 年度地域支援アドバイザー研修 1 回目サマリー

1 回目:令和 5 年 1 月 27 日(金)14:00~16:00 に開催

参加者:21名

プログラム 別紙参照

- ◆ 6 名のサポーターから自己紹介・取り組み紹介のプレゼンテーション
- ◆ 4つのグループに分かれ、グループトーク
- ◆ 第 1G サポーター : 浦 幸寛
- 第 2G サポーター : 平原 由香
- 第 3G サポーター : 森本 剛
- 第 4G サポーター : 福田 人志、荻田 哲司

---

### レビュー目次

1. サポーターの紹介プレゼンテーション資料
2. サポーター一言サマリー



浦 幸寛さん

コロナウイルスにより取り巻く環境が大きく変化した中でも、ずばり「居場所作り」「つながり作り」！

参加者の皆さんから、諦めず、今の自分たちに出来る事は必ずあると前向きな発言に私も力をもらいました。

これからも皆で出来る工夫を考えていきましょう！！





平原 由香さん

コロナ禍こそ、人との繋がりやふれあいが大事だと思う

普段の生活の場面で、ちょっとしたおしゃべりの場、みんなで楽しいひとときを過ごせる時間を作っていくことの大切さ

自然を眺めたり、緑や花を見たり、ちょっとした外出することでリフレッシュできるから、やっぱり外に出かける機会は大事ですねー  
という話をしました



森本 剛さん

今回初めて地域支援アドバイザー研修に受講者サポーターとして参加させて頂きました。

スタッフの方も顔見知りの方が多くて緊張なく話せて良かったです。グループトークでは、グループホーム、小規模多機能、地域包括支援センターさんにファシリテーターとしてそれぞれの事業所の取り組みや地域との繋がり方を伺いながら、コロナ明けにどういう活動をしたいのか、それをより地域に知ってもらうためには、どういう工夫をすればいいのかを自事業所の取り組みを紹介しながらお話しました。



福田 人志さん

先日は研修会に参加させていただいてありがとうございました。サポーター及び取り組み紹介では、皆様の継続的な交流会や、暖かい気持ちをたくさん持ち寄った独自の集いや居場所づくりを知り、素晴らしい活動を知ることができました。

ホームで暮らしている方と、その地域で生活している方が出会える集いや交流会が推進されれば、地域における認知症支援も加速できることも実感しました。

そのためには、ホームのスタッフさんや、ご家族や地域の親しい方々のサポートや支援が欠かせませんので、あまり難しくない楽しいテーマを一緒に考えて、実現に向けて皆で繋がるのが大切だと思いました。

そのためには垣根を越えて地域交流を続けることが、安心して暮らせる社会に繋がっていくことと思いました。

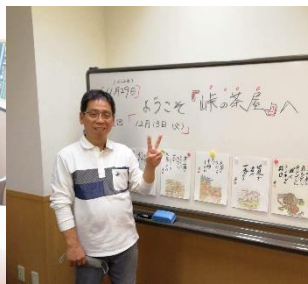
ご本人とのコミュニケーションも大切であると思っております。

ありがとうございました。



峠の茶屋

みんなで熱く語りました



さろ〜んちくし野にて

楽しい交流会を過ごせて幸せでした



荻田 哲司さん

皆さん、まずは、この研修を通して皆さんと出会い、私自身も学びの機会をもらえたことに感謝します。

研修は内容の濃い、考え深いものばかりではなかったでしょうか。

認知症の方にこれからも寄り添い、皆さんが良きパートナーであり続けてください。そして、認知症であってもなくても住みやすい地域を作るためのどんな一歩でもかまいませんから、一歩踏み出してください。そして、この研修で得た仲間をどんどんいい意味で利用してください。

皆さんの踏み出す一歩が、地域に化学変化をもたらすことになれば幸いです。

### 3. 参加者レビュー



#### 2022 年度地域支援アドバイザー研修 1 回目レビュー

令和 5 年 1 月 27 日(金)14:00~16:00

回答数:12

1. 参加の動機、研修で学びたいことを教えてください。

・コロナ禍で心も身体も体調を崩したり、ADL の低下、認知機能の低下が著しいと感じていたため、私にも何かできることはないか、1 つでも気づきや実践できることを見つけたいと思い、参加しました。

・地域交流が少ないため、どのように地域交流したらよいか学びたい

・「コロナでもできる！地域支援ってどんなもの？」というテーマに惹かれました。コロナで中止になっている地域活動ですが、どういう地域支援があるのか、工夫等を勉強したいと思いました。

・現在地域包括支援センターで生活支援コーディネーターとして従事しています。コロナ禍により地域交流センターやサロン活動が中止となっているところもあります。コロナと共存し地域活動の再開や活動を止めずに行われているところの活動方法やアイデアを参考にさせていただきたく参加しました。また、認知症高齢者が地域で生活が続けていける取り組みの仕方を学びたい。

・認知症の方にとっての支援や楽しみなどをいろいろな施設・人から聞いたり学びたいと考えています

・各自治体の地域活動状況

・コロナ禍で地域活動を行う場合の工夫点

・ネットワーク構築方法

・市役所からの情報提供にて研修を知りました。

包括職員として地域への関わりや支援する機会はいくつなか、コロナ禍での医療機関やサービス事業所等との連携や地域住民との交流の減少などにより、ここ数年で課題も変化しています。

またミーティングセンターを始めることもあり、様々な立場の方からの情報収集や学びができる機会だと思い参加しました。

・コロナ禍における地域活動について、どういう活動をされているのか

・地域密着型サービスとして、地域支援がまだ不十分な部分があるので、取り組みや可能性等を学びたい

・コロナ禍で地域との関わりが減ってしまい、改めて地域支援とは、ということを知りたいと思い研修に参加させて頂きました

・サポーターのみなさんの取り組みを教えてもらって自分にできそうなことはやってみてみたいです

・事業所・行政等それぞれの立場の意見を聞かせて頂き勉強したい

2. 第1回目の研修について、気づきや感想を教えてください。

・私自身が何もできないと思っていただけで、同じコロナ禍でも考えて、さまざまなことを実践されている方のお話を伺い、できることを探し、行動することの大切さを感じました。

・地域交流のイベントの参加者が多いと思った

・取り組み事例の発表を聞き、人の喜びが自分の喜びとなるように、地域とのつながりを大切にして仲間づくりに参加していきたいと思います。勉強になりました。

・コロナ禍でも人と繋がる方法はある。外出ができなくても、声を外に届けることはできる。支援者は黒子であること。というのが印象的でした。どうしても、何か支援者がしてあげなければ、という気持ちが働いてしまいましたが、本人たちがどのように過ごしたいか・何をしたいかを大切に、受け皿になるような関わりが大切と感じました。

・認知症の方にとっては、つながる場所が必要であるが、本人を理解することも大切であり、こまごごとを知って支援することが重要と考えました

・支援者として“for”の目線で対象者と向き合ってきたが、“with”の目線にすることで、新たな可能性が見つかることもある。

・ツクタベのような集まりの場は癒しの場や悩みの共有に有効だが、周知(偏見の払拭)、参加者数 up に向けた課題あり

・サポーターの実践例を紹介いただき、実際の状況を知ることができて参考になりました。

昨今の状況から、「コロナ禍でも」より、感染拡大の防止やリスク回避が先立ち、研修や会議など人が集まるものは避け、リモートでの実施までは進まず、中止したまま先送りになっているものが多くあります。

その中でも認知症や障害などいろんな状況と向き合っている人は関係なく過ごされているため、『行ける場所』『居場所』の継続を実践され、本人の声が聞ける環境を維持されているのは【コロナ禍】を理由に逃げていると感じていた中で響きました。

・コロナ禍でも展示会をされたり、自主運営で認知症の人や家族と支援者が料理を作ってつながる場を作っていることに深く心を動かされました。

・色々な情報やアイデアをもとに取り組みやすい小さなことから活動していきたいと思いました。

・6名のサポーターの方の取り組みやグループ内での話を聞いて、どのようなことをされているのか、コロナの状況でもやり方を考えて出来ることがあること。それらを継続していく大切さを学びました。

・人と人とのつながりの大切さを改めて感じました。視点を変えて出来ないということよりも出来ることに目を向けて本人と一緒に考えていくこと、どんなかたでもつながりの場を作り自由に言いたいことが言い合える場所作りの大切さを感じました。

・地域の人たちが集える場を作ることが、まず大事なことであったと気づかされました

・コロナ禍でも入居者、地域での交流を工夫されていることは参考になった。参加者の方からの「おにぎり1つ作るのもイベント」という発言にハッとさせられた。「忙しい」「時間がない」と入居者の方々とコミュニケーションがとれていなかったが、その言葉を聞いて少しでも時間があるときは、小さなことでもコミュニケーションをとろうと思った。早速翌日に皆さんとおやつ作りをした。

3. 参考資料(自己点検シート)を見て、気づきや感想などあれば記載してください。

・できることのヒントにしたい

・ほとんど地域交流できていないと思った

・私たちの担うところは、安心して暮らせる住まいと尊厳を支えるケアを提供すること。自己点検シートを活用し、自分たちの振り返り、地域における認知症ケアの拠点として、そうなるように支援していきたいと思います。

- ・活動目標に沿って、細かく達成状況を確認する項目になっているので、自分の役割が明確になりわかりやすい。
- ・コロナの状況がもっと良くなれば、以前やっていた事はあるので再開できれば。また、新たにやれることもあると思った。
- ・事業所の特色を書く欄があれば、その情報を元にコーディネーターがマッチング等に活用できるのではないかと考えました。
- ・直接、包括として記載する内容ではないが、視点など参考になった。
- ・コロナ禍で何もできていないため、コロナが落ち着いたら、サロンに参加して頂くように取り組みたい
- ・グループホームの入居者や地域支援・交流等の細かい振り返りが出来ていなかった部分もあるので、次につなげるツールの一つとして参考になった。
- ・初めて拝見し、取り組むことでとても有意義なものになるのではと感じ、他職員とも一緒に取り組んでみたいと感じました。
- ・コロナ禍によってできなくなったことがあるということを、あらためて気づくことができました。

4. 研修結果目標・・・下記の当てはまるものにチェックを入れてください。(複数可)

- ☐ やってみたいと思った …2
- ☐ やれそうなことがあると思った …10
- ☐ 今やっていることを続けたいと思った …2
- ☐ もっと学びたい、体験したいと思った …3
- ☐ やるのは難しいと思った …1
- ☐ やれないのではと思った
- ☐ まだわからない

5. 受講する上での希望、疑問点や困っていることなどあれば、記載してください。

- ・ウィズコロナ、ウィズ災害の点で、今後の見通しやこんな風に社会も変わっていくんじゃないか、というものがあれば、考えを聞きたい
- ・事業所内で共有、フィードバックのためにも、講義資料を共有して頂けるとありがたいです。とても充実した研修内容でした。
- ・とても学びの多い研修でしたので、次回も色々な話を聞いてみたいと思いました。
- ・サポーターの皆さんの、取り組む中で大変だったことなどの苦労話を聞いてみたい